

平成27年度

事業計画

平成27年4月1日

社会福祉法人 やまなみ会

障害者就労センター

ウィルアークス

平成27年度 ウィルアークス 事業計画書

1、はじめに

26年度は、事業所の経営再建を目指し、新規事業として印刷事業を開始したが営業力・技術力共に未熟であり、収入の確保につなげる事が出来ず、前年度に続き下記のよ
うな課題は解消されなかった。

- 1、利用者の方々の賃金向上
- 2、施設内における作業量の不足
- 3、利用者の確保（26年度1名退職）

27年度の事業計画としては、上記の3点を重点課題とし改善出来る様、現行の事業の
拡大と共に、印刷事業の受注拡大・新規開拓を行い、安定した作業量を確保することで
より高い賃金を利用者の方にお支払いし、経済的自立が出来る様支援を行う。また、新
規利用者開拓のために、定員とサービス内容の見直しを行い、現状にあった定員として
A型利用定員を今年度より30名から20名へ減員し、新たに定員6名で就労移行支援
事業を行う。職員一人一人が高い経営意識を持ち、売り上げの向上・経費削減に取り組
み安定した経営、利用者の方々の賃金向上につなげて行きたい。その他の課題としては、
高齢化などで過疎化が進む地域の中で、今まで以上に近隣の農家・農業法人・牧場など
へ労働力を提供することや印刷等で地域に貢献し、利用者の方々が地域の一員と認めて
もらい、事業所自体も地域になくてはならない事業所となるような事業運営を行いたい。

2、施設理念

ウィルアークスは、障がい者に対し一般企業に比べ何ら損色ない明るい作業環境と設備を提供し、一人ひとりのニーズを的確に捉え、個々のニーズに合わせた福祉サービスの提供を積極的に取り組んでいく。また個人の尊厳を第一に留意し、経済的自立の為に賃金確保はもちろんのこと、地域生活能力や、身体機能の維持向上などの個々のライフスタイルに合わせた具体的支援やサービスの提供を個別の支援計画の基行っていく。

また支援する職員及び利用社員と共に、「共に支え、共に生きる」という理念のもとに付加価値の高い運営を目指す。

3、運営方針

当事業所は、雇用関係の基に利用者への就労支援を行っており、体調管理や労働衛生管理面に十分な配慮し環境整備に努め、生産活動を通じて就労支援に取り組んでいく。

支援内容は個々のアセスメントによる課題やニーズを的確に捉え、その課題解決に向けた目標設定を個別支援計画で作成し、サービス管理責任者を中心に支援サービスの充足を計る。支援実施に当たっては個人の尊厳を第一に個々が望むライフスタイルの構築の為に、それぞれの課題やニーズを解決に向けた目標を定め取り組んでいく。様々な要望に対応できるように職員朝礼やケース会議等を積極的に行っていく。

利用状況 (平成 27 年 2 月末現在)

サービス内容 就労継続支援 A 型

定員 30 名 現員 18 名 (男性 15 名 女性 3 名)

身体障がい者 5 名 知的障がい者 8 名 精神障がい者 2 名 重複 3 名

1、サービス提供日は、月曜日から金曜日を中心に年間変形労働時間とし、就業時間は8:30 から 17:30 までの 7.5 時間を基本とする。作業内容としてはプラスチック粉碎事業・製函事業を中心とする加工事業。施設外就労・清掃役務提供事業・樹脂選別事業を中心とするその他の事業を展開する。作業配置に関しては、本人の要望を聞き、能力に応じた配置を行い、作業評価や適性能力により個々に支援を行っていく。

2、利用社員の健康管理については、日々の健康管理は社員朝礼時に行い、年度ごとの定期健康診断を実施し健康管理に努める。

3、事故防止及び防災対策については、ヒヤリハット報告書の活用により日々自己点検を行い事故防止に努める。防災対策は 27 年度の消防計画に基づき利用社員・職員への周知と教育を行うと共に避難訓練計画に沿って避難訓練を実施する。

4、個別支援計画の策定については、利用社員のニーズや課題を主体としながら、具体的な支援計画書をサービス管理責任者が作成し支援会議を実施する。職員で周知徹底しながら個別に支援していく。

5、支援者でもある職員には、事業所内外の福祉に関する研修会を始め、受注先における作業研修等も積極的に参加させることにより業務上必要な知識や技能の習得に努め、サービスの向上を計る。(県外の研修会については前年度同様、事業所の経営状況にて参加の有無を決定する) 今年度は職員朝礼・終礼を毎日実施し、支援内容や作業の申し送り等を充足させ、作業日報や各種作業面の管理帳票等の記載を義務付ける。その中でチームワーク能力や専門的知識の共有化をはかり資質の向上をはかる。

4、27年度重点目標

- ① 事業にかかる経費削減に努め職員一人一人がコスト意識を持って業務に従事する。
- ② 適正な人員配置を行い効率的な作業体制を構築する。
- ③ 受注活動では、常に新たな作業種の調査や情報収集に努め、事業所で受託可能な作業は積極的に取り組み、新たな作業種の開拓に取り組む。

5、各事業事業計画

当事業所における事業経営は、社会経済の動向に大きく影響される形となり、前年度は不採算事業であるプラスチック成型事業を廃止したが、その代替りとなる事業は依然として確立できていない。現在の作業量では安定した事業展開には程遠く、賃金向上も厳しい状況である。今年度は、事業所内で行う作業を中心に新規事業の開拓・現行事業の拡大を行いたい。

① プラスチック粉砕事業

現在2社から受注しており、年間を通して一定の受注で推移している。

プラスチックの選別作業についても、ハイブリッド関連の工場から出る廃プラであり、市場が好調なため今年度も安定した受注が見込める。

② 製函事業

季節に左右される事業であり、年間で見ると安定した事業ではない。月ごとの受注数の増減幅が大きく、賃金の低下にも繋がっている事業でもあるが、作業に当たる利用者の障害の特性・年齢等を考慮すれば、受注継続もやむを得ない状況である。今年度は対策として、印刷の事業拡大を行い作業量の不足分を補っていききたい。

③ 農産物加工事業

前年度より積極的に取り組んできた事業である。

今年度もある程度の収益は見込めるが、冬季の作業減少や繁忙期の人員不足などの問題がある。冬季の作業減少については、今年度も予想されるため製函事業と同様に印刷の事業拡大で補い、冬季の利用者の方々の賃金確保・事業所の収入の確保を行う。

④ 清掃事業

公共施設・一般企業、法人・個人住宅等のワックス清掃作業及び近隣の牧場や畜舎内などの清掃作業を行う。今年度も積極的に営業活動を行い、受注拡大を計る。また、付随するクロス張替や内装に伴う作業など事業所で受託可能な作業も取り入れていきたい。

⑤ 印刷事業

新規事業として開始したが、安定した作業量・収入の確保には程遠い状況であり早急に事業として立ち上げを行う。法人内各事業所をはじめ、一般企業・産山村公共施設などへ、主に名刺・ハガキ・封筒等の営業活動を行い受注拡大を行う。